

ごあいさつ



理事長 森山和幸

平素は飯田信用金庫をご愛顧たまわり、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

みなさまがたに当金庫の業績をより良くご理解いただくため、今年も「HOTLINE2016」を作成しました。本冊子をご高覧いただき、私どもの現在の姿をご賢察いただければ幸いです。

さて、当期のわが国経済は、政府による景気刺激策および日本銀行による大胆な金融政策に加え、原油価格の低下等により、特に大企業を中心に企業業績が堅調に推移する中で、前期に引き続いて緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、昨年8月以降は新興国経済、特に中国経済失速への懸念が強まるとともに、平成28年に入ってから円高への転換が見られるなど、今後の見通しについてはまだまだ不透明な状況であります。

一方、当地域の経済情勢については、当金庫が毎月行っている産業経済動向調査の結果からも、一部には改善の兆しが見えるものの、都市部や大企業とは違い、まだまだ厳しい状況が続いているのが現状であります。しかしながら、本年度から地方版総合戦略に基づく各自治体の取組みが具体化することとなります。さらに、11年後のリニア中央新幹線開通に向けて工事の開始が見込まれるとともに、三遠南信自動車道の工事が

進展するなど、今後の地域経済活性化への期待が高まっております。

このような経済情勢のなか、地域社会の発展に貢献するという経営基本理念のもと、平成27年度は第6次中期経営計画の2年目として、お客様満足度の更なる向上、安定的な収益確保のための経営基盤の一層の強化、長期的な経営戦略の策定の三点を最重点施策として取り組みました。特にお客様満足度の向上については、前年度に「りんご宣言」を公表し、全役職員の共通の目標として積極的に取り組んでまいりました。また、当期は創立90周年記念事業として、これまで育てていただいた地域への感謝の意味も込め、広域消防本部へ化学消防ポンプ車を寄贈するとともに、地域内の小中学校、養護学校全66校に対し、図書カードを寄贈するなど、様々な事業も行いました。

また、平成27年度の計数目標に対する実績としましては、創立90周年記念キャンペーン等の効果もあり、預金の平均残高目標を達成するとともに、ここ数年低迷が続いていた貸出金についても、積極的に取り組んだ結果、平均残高目標を達成することができました。また収益目標についても、金利低下の影響等により減益となったものの目標を上回る結果となりました。

なお、平成27年度決算状況につきましては本誌に詳細に記載しておりますが、経常利益は前期比11億53百万円減少して27億86百万円となり、当期純利益は前期比4億55百万円減少して20億45百万円となりました。

平成28年度、当金庫は第6次中期経営計画の最終年として、真に存在感があり頼りがいのある金融機関を目指して、「お客様満足度の向上」、「経営基盤の強化」および「長期的な経営課題への取組み」の三点を引き続き最重点施策として取り組みます。リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を見据え、大きく変化する地域の将来に向けて、地域の成長や活性化に寄与する戦略も当金庫の使命であると捉え、地区内トップシェアの地域金融機関として、その責任を果たすべく、長期的視点に立ち取り組んでまいります。

地域のみなさまには、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。